



会社名 武田薬品工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 長谷川 閑史
(コード番号 4502 東証第1部)
問い合わせ先 コーポレートコミュニケーション部
TEL 03-3278-2037

2008年5月27日

米国 Alnylam 社との RNAi 医薬に関する契約締結について

当社は、このたび、Alnylam Pharmaceuticals, Inc. (本社: 米国マサチューセッツ州ケンブリッジ、以下「アルナイラム社」と、癌領域および代謝性疾患領域を対象に、RNAi 医薬^(注)にかかるプラットフォーム技術に関する非独占的ライセンスならびにこれに基づく共同研究にかかる契約を締結しました。これに基づき、当社はアルナイラム社が現在所有している、また今後5年間で獲得する RNAi 医薬に関する技術・ノウハウの実施権を取得します。加えて、ドラッグデリバリーシステム (DDS) についてのクロスライセンスを行い、RNAi 医薬の創出に向けて、共同研究を実施してまいります。

今回の契約により、当社はアルナイラム社に契約一時金として 100 百万米ドル、技術移転料として総額 50 百万米ドル、対象とする疾患領域の追加に際して 50 百万米ドル/一領域を支払うほか、ターゲット毎に 171 百万ドルを上限とする研究開発の進捗および販売額に基づくマイルストーン、ならびに販売ロイヤリティを支払います。

なお当社は、アジア地域において、今後5年間にわたり、アルナイラム社から全プラットフォーム技術の実施許諾を受ける唯一の企業となるとともに、アルナイラム社の自社創製品 の開発・企業化を行う場合の優先的交渉権を有することになります。一方、アルナイラム社は、当社が今後創製する RNAi 医薬の中から数品目を選択し、米国における共同開発・企業化にかかる権利を有します。
アルナイラム社が現在、臨床開発を実施している ALN-RSV01 を除く

当社の代表取締役社長 長谷川閑史は、「RNAi 医薬にかかる技術と知的財産権を幅広く保有するアルナイラム社との今回の提携により、RNAi 医薬の実用化に必要な特許・技術・ノウハウの獲得を通じて、当社の創薬基盤確立に向けた取り組みを加速してまいります。従来の低分子医薬や現在取り組んでいる抗体医薬に、RNAi 医薬が加わることで、当社の製品ポートフォリオを強化できるものと期待しています」と、述べています。

アルナイラム社の CEO である John Maraganore, Ph.D. は、「世界有数の製薬企業である武田薬品との今回の提携を非常に嬉しく、誇りに思います。当社にとってアジア地域では初めてとなる今回の提携は、バイオ医薬のリーディングカンパニーへの飛躍に向けて非常に大きな意味を持つものです。また、米国市場において武田薬品と共同で RNAi 医薬を研究開発・企業化に取り組めることは当社にとって貴重な機会になるものと考えます」と、述べています。

以上

注) 核酸医薬の一種である RNAi 医薬 (RNA interference) は酵素や受容体等のタンパク質に作用する従来の低分子医薬とは異なり、各種疾患の原因となるタンパク質を作り出す遺伝子 (mRNA) に直接・選択的に作用する特徴を有しています。RNAi 医薬により、創薬ターゲットの拡大および創薬期間短縮等の生産性の著しい向上が期待できることから、今後の創薬研究におけるパラダイムシフトにつながる可能性のある革新的技術として注目されています。

<アルナイラム社について>

米国マサチューセッツ州ケンブリッジに本社を置くアルナイラム社は、2002年の創業以来、一貫してRNAi技術を基盤とした医薬品研究開発を行ってきたバイオテクノロジー領域に強みをもつ企業です。アルナイラム社は先進的なRNAi医薬の研究・開発に必要な多くの特許、技術、ノウハウを有しており、現在フェーズIIにあるRSV呼吸器合胞体ウィルス(RSV: Respiratory Syncytial Virus)治療薬を初めとし、豊富なRNAi医薬のパイプラインを有しています。詳細については www.alnylam.com をご覧ください。

###